

環境経営レポート

令和6年度

(令和6年4月～令和7年3月)



株式会社 千葉環境ビジネス

令和7年5月2日作成



■地球を守る 「護美」最前線

株式会社 千葉環境ビジネス 代表取締役 飯島 伸行

人間の暮らすところには必ず廃棄物が発生します。ゴミは人の営みの証しと言えるでしょう。温暖化や大気汚染など地球の環境に大きな変化と破壊が進行する中、廃棄物の問題は、現代社会のもっとも深刻な課題のひとつとなりました。かつて廃棄物処理は3Kと呼ばれた業界ですが、今や時代の最先端業種といっても過言ではありません。

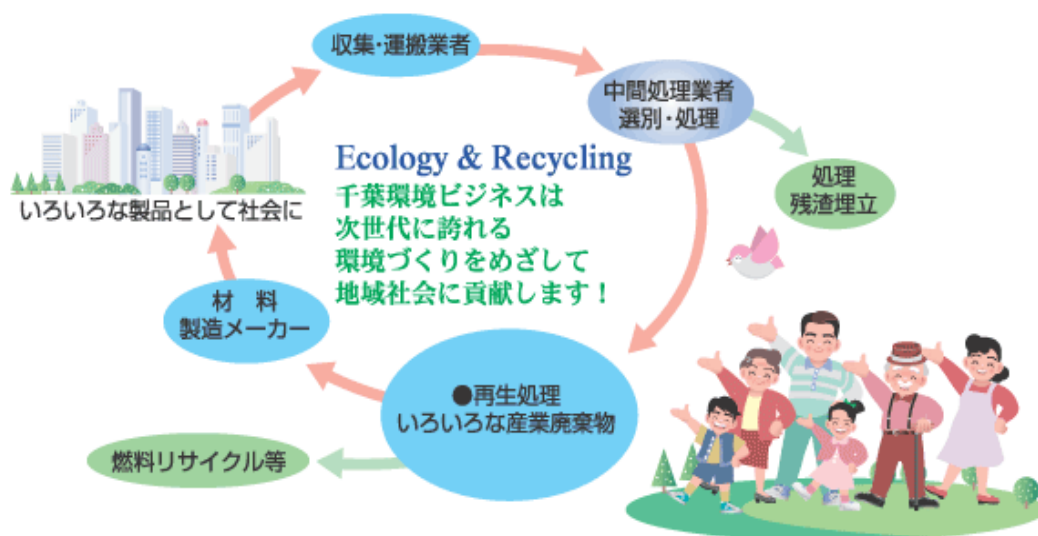
山林への不法投棄や廃油放置などのニュースが流れ、ともすれば「やっかいもの」と思われがちな産業廃棄物ですが、その多くは、分別・破碎・圧縮などの処理により、再利用可能な形に生まれ変わります。

千葉環境ビジネスは創業以来「産業廃棄物」を専門に扱い、適正な処理で地球レベルの環境を守るとともに、資源の節約やリサイクルに貢献してまいりました。

「廃棄物」という言葉には、不要のもの・価値のないものというニュアンスがあります。しかし実はゴミには、価値を創出する無限の可能性が秘められているのです。私どもの仕事は、その可能性を引き出すひとつの重要なステップだと考えています。

昔、ゴミ箱は「護美箱」とも書かれました。これは、ゴミの適正処理で地球の美しい環境を守る千葉環境ビジネスの姿勢には、まさにぴったりの言葉でしょう。

私たちの仕事は最先端の「護美」ですと、今こそ胸を張って申し上げたいと思います。これからも、エコアクション21環境経営システムを活用し、地球と社会に役立つ「護美」の仕事に邁進して行きます。



1. 環境経営方針

企業理念

千葉環境ビジネスは「護美」の心をモットーに、地球の美しい環境を守るとともに、資源の節約やリサイクルに貢献しています。これからも一層、ゴミの価値を創出し、当社の関係する環境関連法等を遵守し、地球温暖化防止と循環型社会に貢献するために、課題とチャンスをつまみ、以下の環境目標に取り組めます。

行動指針

1. 環境関連の法規制、及び当社が同意した業界等の行動規範を順守します。
2. 排出事業者とともに再資源化方法の検討や当社の選別作業の強化により、受入廃棄物のリサイクルを促進します。
3. 省エネ・省電力対策を推進し、二酸化炭素排出量を抑制します。
4. 雨水の利用や節水により、水使用量の削減を図ります。
5. 自社からの廃棄物の排出を削減します。
6. 環境経営システムを活用し、優良産廃処理業者認定制度適合を継続します。
7. 環境経営方針は、全従業員に周知するとともに、公表します。

平成 19 年 8 月 21 日制定

令和 7 年 4 月 1 日 改定

株式会社 千葉環境ビジネス
代表取締役 飯島 伸行

2. 組織の概要

- ・ 名 称 株式会社千葉環境ビジネス
- ・ 代 表 者 代表取締役 飯島 伸行
- ・ 設立年月日 平成 8 年 4 月 18 日
- ・ 資 本 金 1,000 万円
- ・ 所 在 地 本社：〒267-0067 千葉市緑区あすみが丘東 1 丁目 28 番 15 号
千葉環境リサイクルプラント：〒265-0051 千葉市若葉区中野町 1691 番地 7、9、11 の一部
- ・ 環境管理責任者 リサイクルプラント所長 壁 明彦
壁 明彦
- ・ 担当者連絡先（電話／メール）（Tel：043-307-0180／Email：info@chibakankyo.co.jp）
- ・ ホームページ <http://www.chibakankyo.co.jp>

3. 事業の規模

年度（4月～3月）	R4 年度	R5 年度	R6 年度
廃棄物処理量（t）	14,469	15,443	14,934
売上高（百万円）	1,075	1,010	（R7.5.31 決算）
従業員	25	24	23
敷地面積（㎡）	6,517	6,517	6,517

4. 認証範囲

4.1 認証事業所

- ・本社：千葉市緑区あすみが丘東1丁目28番15号
- ・中間処理場：千葉環境リサイクルプラント 千葉市若葉区中野町1691番地7

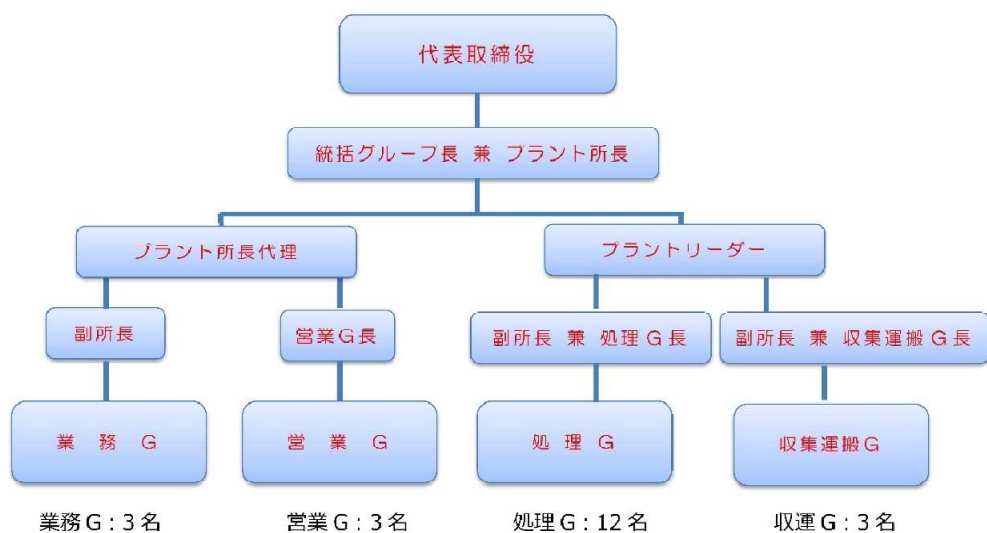
4.2 事業内容

- ・産業廃棄物中間処理業
- ・産業廃棄物収集・運搬業
- ・特別管理産業廃棄物収集・運搬業
(解体工事業実績なし)

5. 組織図

(2025.4.1 現在)

株式会社 千葉環境ビジネス・組織図



【全 23 名：役員 1 名・従業員：22 名(正社員 21 名/アルバイト 1 名)】

<役割・責任>

代表者

- (1) 環境経営方針の策定
- (2) 環境管理責任者の任命
- (3) 代表者による EA21 活動の見直し
- (4) 必要な経営資源の投入
- (5) 課題とチャンスの明確化

環境管理責任者(リサイクルプラント所長)

- (1) 環境経営システムの確立。
- (2) 実施・維持。社長見直し時に状況報告

環境管理推進者(プラント所長代理)

- (1) 事務局、EA21 活動及び結果の報告

環境会議

- (1) 社内外の周知事項の伝達、報告(環境経営活動の進捗・結果報告)
- (2) 環境経営目標、環境経営計画の協議・発案
- (3) 環境会議の開催、環境経営目標達成状況・環境経営活動の実施状況

6. 行政許認可一覧

	都道府県名 政令市名	許可番号	許可日	許可期限	産業廃棄物の種類																	* 優良認定 *		
					燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	ゴムくず	動植物性残渣	金属くず	ガラス・陶磁器	がれき類	ばいじん	鉱さい	廃石綿等（特別管理のみ）			
産業廃棄物処分業許可					取扱産業廃棄物の種類																			
1	千葉市 （中間処分）	第05520041256号	R2. 8. 12	R9. 8. 11							○	○	○	○	○		○	○	○					○
産業廃棄物収集運搬許可					取扱産業廃棄物の種類																			
2	千葉県	第01200041256号	R5. 9. 1	R12. 8. 31	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○
3	東京都	第1300041256号	R4. 12. 8	R11. 12. 7	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○	○	○	○	○			○
4	神奈川県	第01403041256号	R6. 4. 1	R13. 3. 31	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○	○	○	○				○
5	埼玉県	第01107041256号	R5. 10. 16	R12. 10. 15		○	○			○	○	○	○				○	○	○					○
6	茨城県	第00801041256号	R5. 10. 11	R12. 10. 10		○	○			○	○	○	○				○	○	○					○
7	群馬県	第01000041256号	R1. 10. 19	R8. 10. 18						○	○	○	○			○	○	○	○					○
8	栃木県	第00900041256号	R5. 9. 26	R12. 9. 25	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○				○
9	山梨県	第01900041256号	R1. 11. 5	R8. 11. 4		○				○		○					○	○	○					○
10	静岡県	第02201041256号	R1. 10. 8	R8. 10. 7						○							○	○	○					○
11																								
12																								
特別管理産業廃棄物収集運搬許可					特別管理産業廃棄物の種類																			
1	千葉県	第01250041256号	R5. 9. 1	R12. 8. 31			○	○	○													○		○
2	東京都	第1350041256号	R5. 2. 28	R12. 2. 27			○	○	○													○		○
3	神奈川県	第01453041256号	R5. 10. 4	R12. 8. 24			○	○	○													○		○
再生事業者登録					廃棄物の種類																			
	千葉県	第135号	H18. 11. 1								○						○							
解体工事登録																								
	千葉県	第0182号	R3. 12. 19	R8. 12. 18																				
古 物 商																								
	千葉県公安委員会 第441400000976号		H18. 5. 19																					

7. 環境保全技術に関する資格保有状況

・環境保全技術に関する資格保有状況

① 収集・運搬に関する資格保有状況

	R4 年度	R5 年度	R6 年度
・安全運転管理者	1 名	1 名	1 名
・大型自動車第1種	5 名	4 名	3 名
・小型移動式クレーン	2 名	1 名	2 名
・玉掛	3 名	1 名	2 名
・危険物乙種第4類	2 名	1 名	1 名

② 処分施設に関する資格取得状況

	R4 年度	R5 年度	R6 年度
・車両系建設機械（整地）	7 名	8 名	8 名
・フォークリフト技能	8 名	9 名	9 名
・危険物乙種第 4 類	1 名	1 名	1 名

8. 廃棄物処理施設・収集運搬等の状況

〔8-1〕 処分施設

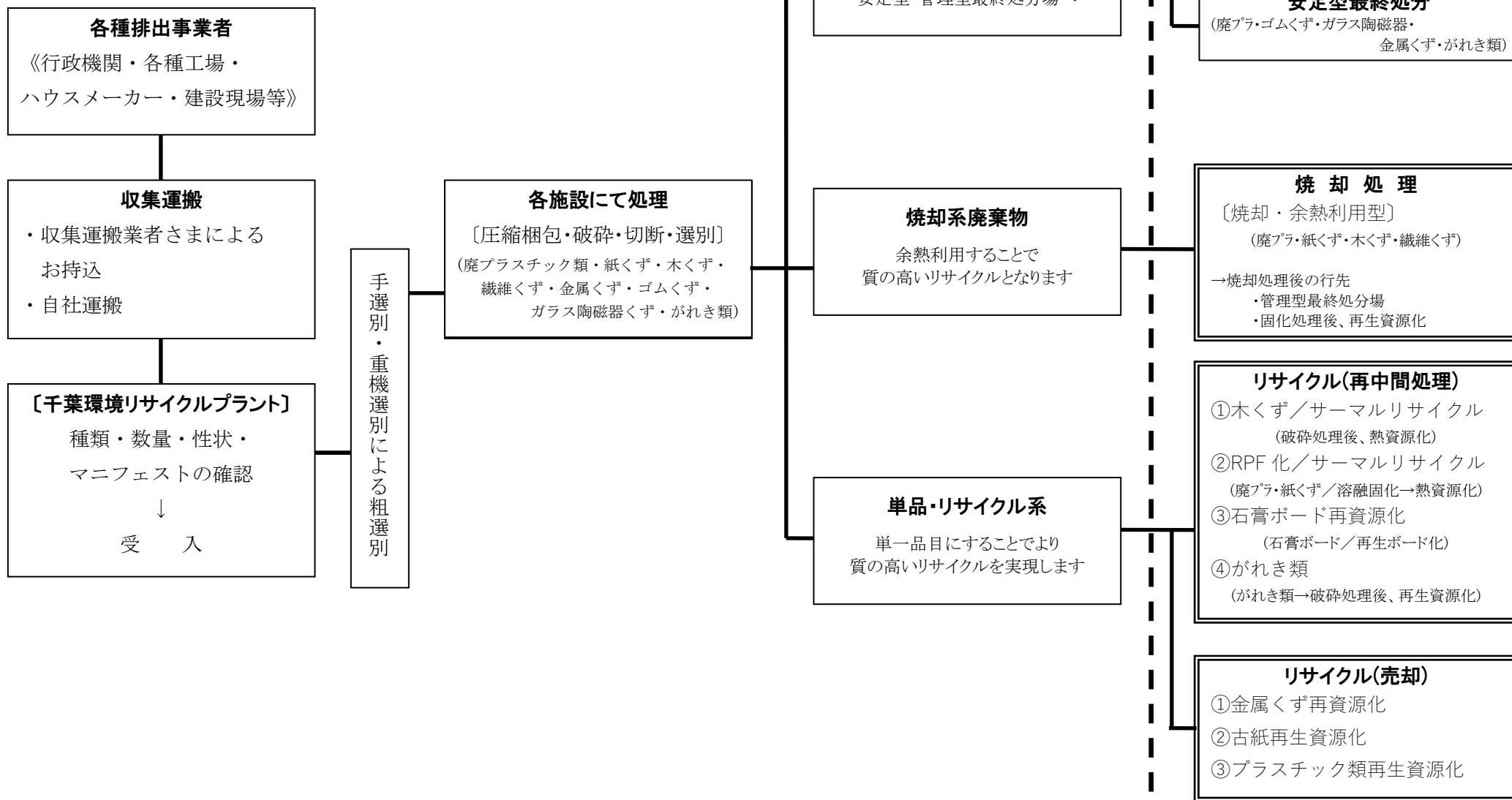
施設の種類(設置年月日)	取扱品目	処理能力	数量
圧縮・梱包施設 (H15. 7/4) (H18. 3/20 繊維, ゴム追加)	廃プラスチック類 紙くず 木くず 繊維くず ガラスコンクリ陶磁器 ゴムくず 金属くず	5. 34t/日 22. 24t/日 69. 92t/日 22. 48t/日 25. 20t/日 3. 58t/日 2. 96t/日	1
切断施設 (H18. 3/20) (H19. 3/12 紙, 金属, ゴム追加)	廃プラスチック類 木くず 繊維くず 紙くず 金属くず ゴムくず	3. 58t/日 4. 92t/日 3. 58t/日 3. 60t/日 3. 20t/日 4. 32t/日	1
破碎施設 (H19. 3/12) (H24. 2/22 破碎機の変更)	廃プラスチック類 木くず 繊維くず	3. 58t/日 4. 92t/日 3. 58t/日	1
選別施設①(ふるい機①) (H24. 2/22 ふるい機追加)	廃プラスチック類 紙くず 木くず 繊維くず 金属くず ガラスコンクリ陶磁器 がれき類	133. 32t/日	1
選別施設②(ふるい機②) (H19. 3/12 設置) (H20. 8. 20 ふるい機の変更)	廃プラスチック類 紙くず 木くず 繊維くず 金属くず ガラスコンクリ陶磁器 がれき類	134. 4t/日	1
施設所在地：千葉市若葉区中野町 1691-7、1691-9、1691-11 の一部 (H24. 2/22 施設面積の拡張)			

〔8-2〕. 保管施設

施設の種類	保管面積	保管容量	保管高さ	保管上限	数量
廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず ガラスコンクリ陶磁器くず、がれき類	36.83 m ²	40.19 m ³	1.40m	40.19 m ³	1
廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、 ガラスコンクリ陶磁器くず、がれき類	75.01 m ²	81.77 m ³	1.40m	81.77 m ³	1
廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、 ガラスコンクリ陶磁器くず、がれき類	47.45 m ²	72.85 m ³	2.50m	72.85 m ³	3
廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、 ガラスコンクリ陶磁器くず、がれき類	69.55 m ²	106.79 m ³	2.50m	106.79 m ³	1
廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず ガラスコンクリ陶磁器くず、がれき類	58.83 m ²	89.14 m ³	2.42m	89.14 m ³	1
廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず ガラスコンクリ陶磁器くず、がれき類	58.83 m ²	91.04 m ³	2.56m	91.04 m ³	1
廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず ガラスコンクリ陶磁器くず、がれき類	72.84 m ²	105.79 m ³	2.20m	105.79 m ³	1
廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず ガラスコンクリ陶磁器くず、がれき類	8.97 m ²	12.0 m ³	—	12.0 m ³	12
	施設所在地：千葉市若葉区中野町 1691-7、1691-9、1691-11 の一部 (H27.8/25 更新許可) (H29.1/13 保管施設の変更) (R2.8/12 更新許可 優良認定)				

[8-3] . 処理のフロー

処理のフロー



〔8-4〕. 収集運搬許可関係

8-4-1. 産業廃棄物収集運搬登録車両一覧

車両の形式	最大積載量(kg)	保有台数(台)
脱着装置付コンテナ専用車	3,500	1
脱着装置付コンテナ専用車	3,550	1
脱着装置付コンテナ専用車	3,550	1
脱着装置付コンテナ専用車	8,200	1
脱着装置付コンテナ専用車	8,000	1
キャブオーバ (クレーン付)	2,850	1
キャブオーバ	2,000	1
ダンプ	2,000	1
軽・貨物	350	2

合計車両台数 10 台

〔8-5〕 産業廃棄物業実績と主要環境負荷実績

実 績	R4 年度	R5 年度	R6 年度
産廃収集運搬量(t)	4,424	3,347	2,942
上記のうち特別管理産業廃棄物の量(t)	1.0	0.1	0.7
産廃中間処理量(t)	14,469	15,443	14,934
産廃再資源化量(t)	11,425	10,302	9,624
電気使用量(kWh) 全社	25,782	26,675	23,183
軽油使用量(ℓ)	154,102	160,144	161,409
ガソリン使用量(ℓ)	5,421	5,267	5,454
二酸化炭素排出量(kg-CO ₂)	422,578	437,807	440,268
水使用量(m ³)	17	31	12
一般廃棄物排出量 (kg)	288	335	482

〔8-6〕 廃棄物処理料金

・処分料金提示方法

産業廃棄物の処理料金につきましては、種類・性状・量・処理の難度等により変わるため、個別に算出・ご提示させていただきます。

9. 環境経営目標と実績

【9-1】 中期環境経営目標

中期計画(R5～R7)に基づいた R5 年度の実績値とその実績値から R6 年度の当初計画を改訂いたしました。

項目			単 位	R5 年度 (2023) 目標値	R5 年度 (2023) 実績	R6 年度 (2024) 改訂目標	R7 年度 (2025) 改訂目標
温室効果ガス	電力使用量 (注)	リサイクルプラント	kWh／年	20,605	20,466	21,055	21,107
			kWh/処分量	1.41	1.36	1.35	1.34
		本社	kWh／年	5,228	6,209	6,209	6,209
		全社合計	kWh／年	25,833	26,675	27,264	27,316
	軽油使用量(重機)		ℓ／年	130,939	132,232	132,088	133,233
			ℓ /処分量	8.96	7.06	8.95	8.94
	軽油使用量(収集運搬車)		ℓ／年	24,575	27,912	28,745	28,721
			ℓ/運搬量	5.50	8.51	8.42	8.33
	ガソリン(営業車、本社)		ℓ／年	5,421	5,267	5,421	5,421
	都市ガス(本社)		m³	49	68	60	59
	プロパンガス(リサイクルプラント)		N m³	93	105	93	93
温室効果ガス排出量(＊)			kg-CO₂/年	414,784	437,807	440,163	443,076
水資源使用量		本社	m³	17	31	36	35
		リサイクルプラント	定性評価	実施	(チェックシート) 点数 17	(実績表) 月次実施・評価	
一廃の自社排出量			kg/年	288	335.5	288	288
産廃の収集運搬量			t /年	4,468	3,347	3,380	3,413
産廃の中間処理量			t /年	14,614	15,443	15,597	15,752
産廃の再資源化量			t/年	11,539	10,302	10,817	11,332
産廃業優良認定の維持			—	維持	維持	維持	維持

注) 電力の排出係数は東京電力エナジーパートナー(株)R3 年度調整済排出係数 0.451kg-CO₂/kWh を使用しています。

【設定および改訂目標の基本的な考え方】

R5 年度は コロナ禍から脱却すると思われたが、現実はまだ回復には遠く、厳しい状況が続いている。そこで収集運搬量、中間処理量、再資源化量については以下のように見直す。但し、急激な回復は期待できないので毎年慎重に計画を見直す。

1. 産廃収集運搬量は R5 年度実績から 1%増加とする。中間処理量は R5 年度実績から 1%増加とする。再資源化量は R5 年度実績より 5%増加とし、中間処分後の廃棄物量は直近 6 ヶ月分の実績維持する。
2. 電力使用量は、本社・リサイクルプラント共に当初目標維持とする。
3. 軽油使用量のうち、場内重機は当初目標値を維持し、収集運搬車両は R5 年度実績より、原単位で 1%ずつ削減することを改訂目標とする。また、営業車のガソリン使用量はそのまま当初目標維持とする。
4. 本社の都市ガスと水使用量は貸店舗分の増加を考慮した、直近 4 ヶ月間の実績を維持する。リサイクルプラントのプロパンガスは当初目標維持とする。水使用量は実績表での月次実績評価とする。

〔9-2〕 中期環境経営計画

R5年度～R7年度の主な環境活動は次のとおりです。

区分	項目	環境活動実施内容
二酸化炭素の削減	収集運搬車両及び重機の軽油使用量の削減	① エコドライブ教育
		② アイドリングストップ
		③ 燃費管理データ収集
		④ 定期点検の徹底
		⑤ 低燃費車の導入
	電気使用量の削減	① 節電告知ラベル貼付
		② グリーン製品・機器への切替
		③ エアコン省エネ設定運転
		④ パソコン省エネモード継続
		⑤ クールビズ・ウォームビズの展開
	ガソリン使用量削減	① エコドライブの推進
	都市ガス使用量削減	① 夏場の室温管理、給湯器の適正使用
	プロパンガス使用量削減	① 夏場の室温管理、給湯器の適正使用
	産廃収集運搬量	① 既存顧客のフォロー
	産廃中間処理量	① 既存顧客のフォロー
	一般廃棄物排出量削減	① 分別の徹底
廃棄物の削減	最終処分量の削減	① 手分別作業の改善
		② 分別作業の標準化
		③ 処分方法の見直し
	リサイクルの拡大	① 排出事業者への分別提案
		② PR 紙、環境活動レポートの配付
		③ リサイクルネット整備・拡充
水排資水源・	地下水使用量の削減	① 浸透マスの整備
		② 雨水利用
		③ 洗車水、散水の節約
その他	産廃業優良認定の維持	① 情報公開の定期更新
		② 低公害車の使用
		③ 優良認定許可申請書の準備

●環境経営目標とその実績及び達成率（活動期間：R6年4月～R7年3月での実績評価）

項目			単 位	R6 年度		
				目標値	実績値	達成率 (%)
温室効果ガス	電力使用量削減	リサイクルプラント	kWh	21, 055	16,931	120
			kWh/ t 処分量	1. 35	1.13	113
		本社	kWh	6, 209	6,567	95
		全社合計	kWh	27, 264	23,541	116
	軽油使用量(重機) 削減 (リサイクルプラント)		ℓ	132, 088	135,752	97
			ℓ / t 処分量	8. 95	9.34	96
	軽油使用量削減 (収集運搬車)		ℓ	28, 745	25,658	111
			ℓ / t 運搬量	8. 42	8.75	96
	ガソリン(営業車、本社) 使用量削減		ℓ	5, 421	5,454	99
	都市ガス(本社)使用量削減		N m³	60	82	63
	プロパンガス(リサイクルプラント) 使用量削減		N m³	93	133	57
	温室効果ガス排出量削減(注-1)			kg-CO2	440,163	440,462
水資源使用量 (注-2)	本社	m³	36	28	122	
	リサイクルプラント	チェック シート点数	実施	17	100	
一廃の自社排出量			kg	288	482	60
産廃の収集運搬量			t	3,380	2,942	87
産廃の中間処理量			t	15,597	14,934	96
産廃の再資源化量			t	10,817	9,624	89
産廃業優良認定の維持			—	情報公開	情報公開 維持	100

注-1) 電力の二酸化炭素排出量算出は東京電力エナジーパートナー(株)の2021年度調整済排出係数0.451kg-CO2/kWhを使用しています。

注-2) 水資源使用量のリサイクルプラントはチェックシート点数で評価しています。

チェックシートは取り組みチェックシートの1)水の効率的利用及び日常的な節水の項目を利用しています。(別紙、参照)

● R6年度の主な環境経営計画の実施結果

区分	項目	環境活動実施内容	評価
二酸化炭素の削減	収集運搬車両及び重機の軽油使用量の削減	① エコドライブ教育	◎
		② アイドリングストップ	◎
		③ 燃費管理データ収集	◎
		④ 定期点検の徹底	○
		⑤ 低燃費車の導入	◎
	電気使用量の削減	① 節電告知ラベル貼付	○
		② グリーン製品・機器への切替	○
		③ エアコン省エネ設定運転	○
		④ パソコン省エネモード継続	○
		⑤ クールビズ・ウォームビズの維持	○
	ガソリン使用量削減	① エコドライブの推進	○
	都市ガス使用量削減	① 夏場の室温管理、給湯器の適正使用	○
	プロパンガス使用量削減	① 夏場の室温管理、給湯器の適正使用	○
	産廃収集運搬量	① 既存顧客のフォロー	○
	産廃中間処理量	① 既存顧客のフォロー	○
	一般廃棄物排出量削減	① 分別の徹底	○
廃棄物の削減	最終処分量の削減	① 手分別作業の改善	◎
		② 分別作業の標準化	◎
		③ 処分方法の見直し	○
	リサイクルの拡大	① 排出事業者への分別提案	○
		② PR 紙、環境活動レポートの配付	○
		③ リサイクルネット整備・拡充	◎
水資源・水排	地下水使用量の削減	① 浸透マスの整備	○
		② 雨水利用	◎
		③ 洗車水、散水の節約	○
その他	産廃業優良認定の維持	① 情報公開の定期更新	○
		② 低公害車の使用	○
		③ 優良認定許可申請書の準備	○

R6年度の環境活動結果は上記のとおりでした。

R7年度は△や○の項目が○や◎になるように全員で取り組みます。

〔9-4〕 R6年度活動結果の評価・考察

1. 二酸化炭素排出抑制活動

(1) 電気の使用量

①リサイクルプラントは目標達成率 120%となり、大幅に削減できました。

処理量当たりの原単位目標は通常処理量が減少すると効率面も悪化しますが、目標達成率 113%となり、効率的に処理作業を実施することができました。

②本社は猛暑の影響によりエアコン使用量が増加したため目標達成率 95%でした。

(2) 軽油使用量

①重機の軽油使用量は目標達成率 97%となり、原単位目標は 96%となった。処理量が減少したことによる隙間時間に、再資源化のための重機による分別作業時間が増加したことが要因として考えられる。分別が進んだことは評価できますが、ベルトコンベアを利用するか重機で分別するか廃棄物の性状に合わせてより効率的な作業を実施するなどの改善に取り組みます。

②収集運搬車両の軽油使用量目標達成率 111%となりました。収集運搬量が減っていることも要因として考えられますが、エコドライブ意識が高まっていることも結果につながっていると考えています。原単位目標は目標達成率 96%でした。これは受注量の減少から、特に前半期に再資源化先への運搬に自社車両を使用したためであり、再資源化量には貢献したが軽油使用量としては未達となりました。

(3) ガソリン使用量

営業車のガソリン使用量は目標達成率 99%となり、わずかに未達成となりましたが、エコドライブを継続して目標達成に取り組みます。

(4) 都市ガス、プロパンガス使用量

都市ガス（本社）は目標達成率 63%、プロパンガス使用量（リサイクルプラント）は目標達成率 57%となった。要因としては、猛暑の影響によりエアコンの使用量が増加しことが考えられます。

2. 産業廃棄物の収集運搬、中間処理、再資源化等

燃料費の高騰等により社会全体の経済活動が低迷し、弊社取引先の事業活動にも大きい影響が出ていると考えられます。これにより、排出事業者からの産業廃棄物の排出量が減少している状況であり、当社の産廃収集運搬量は減少し、目標達成率 87%でした。又、リサイクルプラントの中間処理量は減少し、目標達成率 96%でした。なお、再資源化量も減少し、目標達成率 89%でした。既存顧客のフォローを徹底し、既存顧客からの紹介件数の増加に取り組みます。ベルトコンベア等を活用し、分別の徹底ができました。リサイクル率：(処分量-処理後残渣) / 処分量を確認し 92%であることが分かったため、次年度はリサイクル率向上目標を設定する。

3. 水使用量

事務所での節水を推進しました。

4. 一般廃棄物排出量

目標達成率は 60%となり、一般廃棄物の排出量が増加したことによる是正処置を行った。古紙が可燃物として排出されていたため、古紙リサイクルとして分別をするように改善する。

5. 産廃業優良認定の維持

(1) 優良産廃処理業者認定制度で優良認定された許可

- ・収集運搬業：千葉県、東京都、神奈川県、埼玉県、茨城県、栃木県、群馬県、山梨県、静岡県
- ・特管収集運搬業：千葉県、東京都、神奈川県
- ・処分業：千葉市より R2 年 8 月 12 日に優良認定を取得しました。
- ・産廃ネットに情報公開項目の更新が計画通りできました。
- ・低公害車の使用を継続しています。

〔9-5〕 地域環境活動

千葉環境リサイクルプラントでは定期的に敷地周辺の清掃活動を行っています。
今後も全員で地域の環境保全に尽力して参ります。



〔9-6〕 ちば SDGs パートナーに登録

R4.7.4 に申請し登録されました。登録番号：1196

(1) 関係する SDGs 目標(ゴール)

	①貧困		②飢餓		③保健		④教育		⑤ジェンダー
	⑥水衛生		⑦エネルギー		⑧成長雇用		⑨革新		⑩不平等
	⑪都市問題		⑫消費生産		⑬気候変動		⑭海洋資源		⑮陸上資源
	⑯平和		⑰実施手段						

(2) SDGs 達成に向けた経営方針等

SDGs 推進に取り組む他企業や地域の様々な団体、学校等と連携し、持続可能な社会づくりを進めます。

- ・エコアクション 21 環境経営をすすめ、環境に配慮した経営を進めます。
- ・事業者から排出された廃棄物の再資源化に努めます。
- ・取引事業者様へ SDGs を知ってもらえるよう、普及啓発に取り組みます。

(3) 各ゴールの具体的取り組み

- ⑦エネルギー：EA21 活動で電気、軽油、ガソリン、灯油の削減に目標を定めて取り組みます。
- ⑪都市問題：地域から発生した廃棄物について再資源化に取り組みます。又、適正に処理します。
- ⑫消費・生産：工事で発生した廃棄物は再資源化します。
- ⑬気候変動：気候変動の原因とされる CO2 の発生削減に EA21 活動を通して取り組みます。
- ⑰実施手段：環境法令に関連する業務遂行に当たっては常に法令遵守に努めていますが、最新法令改正や解釈等については関係先と情報を共有し対応します。

【9-7】次年度の取組内容

(1) 環境経営目標

R6 年度実績値を基準値とし、新たな中期計画を設定した。

項目			単 位	R6 年度 (2024)	R7 年度 (2025)	R8 年度 (2026)	R9 年度 (2027)	
				実績値	目標	目標	目標	
				基準値				
温室効果ガス	電力使用量	リサイクルプラント	kWh	16,931	1%削減 16,762	2%削減 16,592	3%削減 16,423	
			kWh/処分量	1.17	1%削減 1.16	2%削減 1.15	3%削減 1.13	
		本社	kWh	6,567	維持 6,567	維持 6,567	維持 6,567	
			全社合計	kWh	23,541	1%削減 23,306	2%削減 23,070	3%削減 22,835
		軽油使用量(重機)		ℓ	135,752	1%削減 134,394	2%削減 133,037	3%削減 131,679
			ℓ/処分量			9.34	1%削減 9.25	2%削減 9.15
	軽油使用量(収集運搬車)		ℓ	25,658	1%削減 25,401	2%削減 25,145	3%削減 24,888	
					ℓ/運搬量	8.75	1%削減 8.66	2%削減 8.58
		ガソリン(営業車、本社)	ℓ	5,454	維持 5,454	維持 5,454	維持 5,454	
		都市ガス(本社)	N m ³	82	維持 82	維持 82	維持 82	
	プロパンガス(リサイクルプラント)	N m ³	133	維持 133	維持 133	維持 133		
	温室効果ガス排出量(*)			kg-CO ₂	440,462	1%削減 436,057	2%削減 431,653	3%削減 427,248
	水資源使用量	本社	m ³	28	維持 28	維持 28	維持 28	
		リサイクルプラント	定性評価	(チェックシート) 点数 17	(実績表) 月次実施・評価			
	一廃の自社排出量			kg	482	維持 482	維持 482	維持 482
	産廃の収集運搬量			t	2,942	1%拡大 2,971	2%拡大 3,001	3%拡大 3,030
	産廃の中間処理量			t	14,934	1%拡大 15,083	2%拡大 15,233	3%拡大 15,382
	産廃リサイクル率			%	92	維持 92	維持 92	維持 92

注) 電力の排出係数は東京電力エネルギーパートナー(株)R5 年度調整済排出係数 0.431kg-CO₂/kWh を使用しています。

(2) 環境経営計画

環境経営計画は 11 ページの内容を継続します。

10. 環境関連法規の遵守状況と訴訟の有無

当社が遵守しなければならない環境関係法規等は次のとおりです。

- ・廃棄物処理法
- ・消 防 法
- ・自動車NO_x・PM法
- ・労働安全衛生法
- ・道路運送車両法
- ・道路交通法
- ・振動規制法、騒音規制法
- ・建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律
- ・使用済自動車の再資源化等に関する法律
- ・特定家庭用機器再商品化法

R7 年 4 月 30 日に遵法性評価を行った結果、環境関連法規への違反はありませんでした。
また、関係当局よりの指摘及び訴訟は、過去 3 年間ありませんでした。

11. 代表者による全体評価と見直し・指示

R7 年 5 月 2 日に社長による全体評価と見直しを実施した。

報告項目	管理責任者からの報告内容	結果	社長からの指示等
環境経営システム	<ul style="list-style-type: none"> ・管理部門をリサイクルセンターへ移設して約 4 年経過し、業務は安定し、効率的な運用が出来ている。 ・環境目標や緊急事態対応訓練等が計画的に実施できた。 	○	了承
環境目標	<ul style="list-style-type: none"> ・燃料費の高騰等により社会全体の経済活動が低迷し、弊社取引先の事業活動にも大きい影響が出ていると考えられます。これにより、排出事業者からの産業廃棄物の排出量が減少している状況であり、当社の産廃収集運搬量は減少し、目標達成率 87% でした。又、リサイクルプラントの中間処理量は減少し、目標達成率 96% でした。なお、再資源化量も減少し、目標達成率 89% でした。既存顧客のフォローを徹底し、既存顧客からの紹介件数の増加に取り組みます。ベルトコンベア等を活用し、分別の徹底ができました。リサイクル率：(処分量-処理後残渣)/処分量を確認し 92% であることが分かったため、次年度はリサイクル率向上目標を設定する。 ・二酸化炭素の排出量は目標達成率 100% となり、車両のエコドライブや重機のアイドリングストップが徹底できた。 ・処理量当たりの原単位目標は通常処理量が減少すると効率面も悪化しますが、目標達成率 113% となり、効率的に処理作業を実施することができた。 ・一方、重機の軽油使用量は目標達成率 97% となり、原単位目標は 96% となった。処理量が減少したことによる隙間時間に、再資源化のための重機による分別作業時間が増加したことが要因として考えられる。分別が進んだことは評価できますが、ベルトコンベアを利用するか重機で分別するか廃棄物の性状に合わせてより効率的な作業を実施するなどの改善に取り組みます。 	○	了承
環境関連法規制	<ul style="list-style-type: none"> ・環境法令等登録表に基づき、R7 年 4 月 30 日に遵守状況を評価した。その結果、問題点は無かった。 	○	了承
外部から苦情・要望	<ul style="list-style-type: none"> ・環境に関わる苦情・要望等は無かった。また、行政からの指導も無かった。 	○	了承
緊急事態の想定及び訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年3月3日にリサイクルプラントにて産業廃棄物がコンテナから荷こぼれた時の対応訓練を実施した。 ・この訓練結果による手順および緊急連絡ルートの見直しは不要と判断。 	○	了承
予防処置及び是正処置の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・一般廃棄物の排出量が増加したことによる是正処置を行った。古紙が可燃物として排出されていたため、古紙リサイクルとして分別をするように改善した。 	○	了承
社長からの指示	<ul style="list-style-type: none"> ・令和 6 年度基準として、中期計画を変更すること。また、リサイクル率：(処分量-処理後残渣)/処分量を確認し 92% であることが分かったため、次年度はリサイクル率向上目標を設定すること。 ・二酸化炭素排出量の大半を占める軽油使用については、収集運搬車両のエコドライブ、重機のアイドリングストップ活動や処理作業の効率化を推進すること。 		

変更の必要性の有無

① 環境経営方針	情報公開目標についてはすべての許可が優良認定となったため、継続に修正。
② 環境経営目標	令和 6 年度基準として、中期計画を改定。
③ 環境経営計画	令和 6 年度の環境経営計画を引続き活動を推進する。
④ 環境経営システム (組織を含む)	変更の必要はなし